

れっこうげんせいもうまくはくり

裂孔原性網膜剥離

【裂孔原性網膜剥離とは. . .】

網膜に小さい穴ができ、この穴から眼球内の水が網膜の下へ入り込んで、網膜が剥離する病気です。剥離した網膜では、物が見えなくなります。たとえば、上の方の網膜が剥離すると、下方が見えなくなります。また、物を見る中心である黄斑部に剥離が進みますと、視力が一度に低下してしまいます。網膜は薄い一枚の膜で、剥離した網膜はゆらゆらと揺れながら浮いていますから、目を動かすたびに剥離が進行してゆき、見える範囲だんだんと狭くなります。全部の網膜が剥離すると全く見えなくなります。

【原因は？】

網膜裂孔のできる真の原因はわかっていませんが、体質つまり遺伝が関係していると考えられています。また、高度近視の人はそうでない人よりも網膜裂孔ができやすいことが分かっています。

【治療】

早い時期のものであれば、手術をせずに外来のレーザー光線の治療でなおることもあります。しかし、進行したものではただちに手術をする必要があります。手術までは剥離が進行するのを防ぐために、トイレと食事の時以外は両目を閉じて寝るようにします。物を見る中心である黄斑部に剥離が進行すると視力が低下してしまいます。網膜が剥離するということは、網膜が下の層から引き裂かれるということです。一度引き裂かれてからひっつけても元の視力には戻りません。

【経過】

黄斑部に剥離が進む前に手術をしないと剥離が治っても良い視力は得られません。また、現在欠けている視野は手術が終わっても元には戻りません。

日帰り白内障手術施設

眼科 中橋クリニック



7 5 2 - 8 8 1 8